

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第26回 LLW廃棄体等製作・管理分科会 (F9Ph2SC) 議事録

1. 日時 2012年2月10日 (金) 13:30~15:20
2. 場所 仏教伝道センター 7階 「見」の間
3. 出席者 (順不同, 敬称略) (開始時)
(出席委員) 柳原主査, 近江幹事, 武部, 七田, 伊藤, 坂下, 柏木, 目黒, 脇, 水越, 原, 大塚, 遠藤 (13名)
(欠席委員) 岡本副主査, 大浦 (2名)
(代理委員) 廣瀬 (小畑代理) (1名)
(委員候補) 金子 (1名)
(常時参加者) 北島, 花畑, 水井 (3名)
(欠席常時参加者) 小足, 藤井, 中山, 菊池, 満田, 天澤, 木原, 松澤 (8名)
(傍聴) 森山 (1名)

4. 配付資料

- | | |
|---------------|--------------------------------|
| F9Ph2SC26-1 | 第 26 回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会議事録案 |
| F9Ph2SC26-2 | 人事について |
| F9Ph2SC26-3 | 廃棄体区分の略号／記号について(案) |
| F9Ph2SC26-4 | L1 製作標準及びL1 検査標準の一体化方針 |
| F9Ph2SC26-5-1 | L1 製作標準案とL1 検査標準案の一体化標準案(本体)比較 |
| F9Ph2SC26-5-2 | L1 一体化標準案(本体一式) |
| F9Ph2SC26-6-1 | L1 製作標準とL1 検査標準案の一体化標準案(解説)比較 |
| F9Ph2SC26-6-2 | L1 一体化標準案(解説一式) |
| F9Ph2SC25-7 | 「LLW 廃棄体等製作・管理分科会」の予定案 |

5. 議事

(1) 出席委員の確認

遠藤委員から, 開始時に 14 名の委員の出席があり, 分科会成立に必要な委員数 (11 名以上) を満足している旨の報告が行われた。

(2) 前回議事録(案)の確認 (F9Ph2SC26-1)

遠藤委員から, 第 25 回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会の議事録(案)が紹介され, 承認された。

(3) 人事について (F9Ph2SC26-2)

遠藤委員から, 大間 知行氏(日本原燃(株))が委員を退任されたことが報告された。

続いて、遠藤委員から、金子 悟氏(日本原燃(株))が推薦されている旨紹介され、決議した結果、委員として承認された。又、常時参加者登録として、松本 務氏 ((株)オー・シー・エル)の紹介があり、常時参加者として承認された。

(4) 廃棄体区分の略号/記号について

柏木委員より、F9Ph2SC26-3 を用い、標準委員会などでコメントが出された廃棄体種類の記号(判りやすい記号に見直し)に対し、この変更案についての説明がなされ、廃棄体タイプの略号/記号案については、本標準では案2 (L1-C, L1-E, L1-S) を採用することとし、今後他の整合などの必要があれば変更することとした。主な意見は次のとおり。

- ・ 案2と案3の合わせた案はどうか (L1-封入など)。
⇒今後の運用で容器に印字等も考慮すると、日本語が入ると対応が困難。
- ・ 法令では、“容器に封入”と“容器に固化”しかないため、これを考慮した案2の変形はどうか (L1-C, L1-Sa, L1-Sb など)。
- ・ 案2で用いた英訳が IAEA など国際的に通用するものか確認した方が良いのではないか。
⇒IAEA 用語などには、これら廃棄体タイプの直接的な用語が無く、また厳密に英訳すると一言で表せないなど難しい。案2の英訳でよいか確認をする。

(5) L1 製作標準及び L1 検査標準の一体化方針について

原委員より、F9Ph2SC26-4 を用い、L1 製作標準及び L1 検査標準の一体化方針についての説明がなされ、次のとおりとなった。

- ・ 一体化標準案の名称については、“余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法：201X”で承認された。
本体の構成案、附属書の構成案についても資料の案で承認された。

(6) L1 一体化標準案(本体)について

原委員より、F9Ph2SC26-5-1, F9Ph2SC26-5-2 を用い、L1 製作標準案と L1 検査標準案の一体化標準案(本体)比較と L1 一体化標準案(本体一式)についての説明がなされ、下記の主な質疑が行われた。

- ・ 箇条 3 用語及び定義に、“3.1 容器に固化”はあるが、“容器に封入”が無い。定義が必要ではないか。
⇒“容器に封入”を追記する。
- ・ 箇条 3 用語及び定義で“3.2 固化体”とあるが、この用語は標準で使われているか。
⇒確認して不要であれば削除する。その他の用語についても確認する。
- ・ 各委員も確認し、他にも追加すべき用語などがあれば事務局へ連絡することとした。
- ・ 検査項目の“目視”で ITV などを利用した場合、その必要な解像度レベルなどは規定しなくても良いか。
⇒廃棄物の形状など、ほとんどの目視検査は、詳細なレベルは必要ないと考えられるが、唯一、上蓋の溶接部の検査ではある程度の解像度が必要となるかもしれない。したがって、

“附属書 P WES7901:2011 から要求される溶接部の検査の方法”で ITV の解像度など説明することを検討する。その後、必要に応じて標準本体への反映も検討することとする。

- ・ 5.1 検査項目の表 1 で“Ⅱ 容器に固型化してあること”には“Ⅱ-4 廃棄物の種類、形状及び寸法”が検査項目となっているが、“Ⅰ 容器に封入してあること”に“廃棄物の種類、形状及び寸法”は検査項目として必要ないか。

⇒封入の場合は、乾燥処理のために必要な廃棄物の種類などは“Ⅰ-1 自由水除去処理のための廃棄物分別”で検査することとしている。一方、固型化の場合は、分別した後も廃棄物の大きさが小さすぎると充填できないなど、廃棄物の形状や寸法などにさらなる考慮が必要なことから検査項目として規定している。

- ・ 表 4 のⅡ-1 とⅡ-4 の検査で、“次の記録によって確認する。”と“次のいずれかの記録によって確認する”の違いは。

⇒例えば、ある行為のインプットとアウトプットで廃棄物の特性が変わらない場合はインプットかアウトプットの“いずれか”を確認すれば十分であるが、廃棄物の分別のように、インプットとアウトプットで対象廃棄物の特性が変化する場合、実施した行為（又は処理）の確認のためにインプットとアウトプットの両方を確認する必要があり、このような場合を“次の記録によって確認する。”と記載している。

(7) L1 一体化標準案（解説）について

原委員より、F9Ph2SC26-5-1、F9Ph2SC26-5-2 を用い、L1 製作標準と L1 検査標準案の一体化標準案(解説)比較と L1 一体化標準案(解説一式)についての説明がなされ、下記のような主な質疑が行われた。

- ・ “1 制定の趣旨”で改定前の製作標準に記載している、“技術基準を満足するため”という趣旨は記載が必要ではないか。改定案では改定の趣旨は記載されているが、本標準の主な目的である技術基準を満足する主旨が記載されていない。

⇒本体の序文で記載されているため、改めて解説に記載する必要があるかは疑問。本体の序文に記載されていることを繰り返し記載しても意味がない。

⇒重要なことでもあるので、さらっと簡単に追記することで検討する。

- ・ “7 品質マネジメントシステム”で QMS の定義づけをしているが、“6 記録”に QMS が使われている。

⇒“6 記録”で定義づけするよう修正する。

- ・ 解説表 1 で附属書 C の輸送について規定事項が“—”となっているが、何も記載されていないのか。

⇒輸送上の要件については、まだ規定できる知見が得られていないため、規定事項にはしていない。附属書の中で、輸送上求められる要件を記載している。

(7) 分科会の今後の予定について

近江幹事より、F9Ph2SC26-7 を用いて、次回以降の分科会の進め方についての説明がなされ、提示されたスケジュールで、審議を進めることで承認された。また、今回は、製作方法と検査方

法に係る附属書等について，審議を行うこととした。

6. その他

次回の分科会は，2012年4月16日(月)13:30～（原技協A・B会議室）を予定。

以 上